

2022 年度 自己点検・評価報告書

理工学部評価分科会

2022 年 2 月(最終報告)

基準 4 教育課程・学習成果

2023 年度カリキュラム改訂を予定している学部・研究科については、下記の内容について記入ください。

- ・ 授与する学位ごとに、学位授与方針を適切に定めているか。
- ・ 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を適切に定めているか。
- ・ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

2023 年度にカリキュラム改訂を行わない場合は、下記の内容について記入ください。

- ・ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2021 年度の自己点検・評価で課題となった事項

- ・ 大学の DP 改訂に伴う学部 DP、CP の見直し
- ・ 2023 年度開始に向けたカリキュラム改訂
- ・ 学部の教育目標および 3 ポリシーの学生への周知不十分

【2】2022 年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

- ・ 大学の DP 改訂に伴い、学部 DP、CP の見直しを行う。
- ・ 2023 年度カリキュラム改訂を目指し、改訂した学部 DP、CP に基づいて適切な授業科目開設、体系的な教育課程の構築を行う。
- ・ 春学期、秋学期ガイダンスにおいて、学部の教育目標および 3 ポリシーを学生へ周知する。

<最終報告までの達成目標>

2023 年度より新カリキュラムでスタートできるよう、授業科目の新設、統廃合を行う。それに合わせて授業内容も精査し、体系的な教育課程となるよう必要に応じて変更する。

【3】2022 年度の実施の点検・評価と 2023 年度以降の方針

【2022 年度の実施の点検】

5/30 企画調査室と学部長、副学部長で 3 ポリシーについて協議を実施。DP についてはアセスメントをどのように実施するかという観点による認識のすり合わせを行うとともに表記方法については全学的な統一方針の共有を行った。また CP、AP についても全学方針を踏まえて、各学部・研究科で検討し、適宜改訂をおこなった。2023 年度からの新カリキュラムについて、授業科目の新設、統廃合を行った。それに合わせて授業内容も精査し、体系的な教育課程となるよう変更した。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

2023年度以降の取り組みとしては、まずはティーチングポートフォリオの取り組みを全教員に対して実施する。また、ChatGPTを用いたレポート提出が懸念されるため、それに対する対策を至急打ち立てる必要がある。

基準5 学生の受け入れ

- ・ 学生の受入のための広報活動、および学生の受け入れの適切性について、点検・評価を行っているか。
- ・ 受入れ制度ごとに学生の学習状況を把握し、点検を行っているか。

1. 学生の受入のための広報活動、学生の受け入れの適切性について

【1】2022年度の方針・改善計画・取り組み等（および中期的な改善計画）

＜方針・改善計画＞

- 1) 今年度より導入したPASCAL入試の実施による、理工学部教育方針に合致した志願者の新たな掘り起こしに取り組む。
 - 2) 関西創価高等学校への広報強化策の一環として、理数探求授業へのサポートを実施する。
 - 3) 海外からの留学生の募集強化の一環として、ブラジル創価学園へ訪問し理工学部のアピールを実施する。
 - 4) 学部卒業生のネットワークを作り、志願者掘り起こしにつなげる方法を検討する。
- など、短期・中期の広報活動改善に取り組む。

＜最終報告までの達成目標＞

- 1) PASCAL入試応募者についてアセスメントを行い、その結果に応じて次年度の広報活動へフィードバックする。
- 2) 次年度からの理数探求授業共同実施に向け、定期的に協議会を実施する。
- 3) 11月にブラジル創価高校へ実際に赴き、出張授業を実施する。その中で理工学部の広報にも力を入れる。
- 4) 学部卒業生のネットワークを立ち上げる。

【2】2022年度の取組みの点検・評価と2023年度以降の方針

【2022年度取組みの点検】

- 1) PASCAL入試を初めて実施したが、課題のレベルが高すぎたこともあり、合格者のレベルは非常に高かった一方、受験者数が少ないという問題点があった。
- 2) 次年度からの理数探求授業共同実施に向け、定期的に協議会を2か月に1度程度の頻度で実施した。

- 3) 11月にブラジル創価高校へ実際に赴き、出張授業を実施した。その中で理工学部の広報も行った。
- 4) 学部卒業生のネットワークを立ち上げについて検討した。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

- 1) PASCAL入試の課題設定レベルを下げ、受験者数を増やす必要がある。
- 2) いよいよ理数探求授業を共同実施する。必要に応じて運用の修正を行う。
- 4) 学部卒業生のネットワーク立ち上げについてさらに検討する。

学生の意見聴取

- ・ 履修、授業、DPに関すること
- ・ 昨年度の学生からの意見聴取を受けて取り組んだ事項について
- ・ 学生生活アンケートから見える本学の傾向性について

【1】2021年度の意見聴取をもとに実施した検討や取り組みの内容

3ポリシーや授業到達度、LOsとの関連などを各授業のガイダンスで触れる旨を教授会で依頼した。

【2】2022年度の意見聴取を踏まえた2023年度以降の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

上記については引き続き教員に依頼していく。またコンタクトグループの回数増加の依頼に応え、実施回数を1から3回に増やして実施する予定である。